

Y06a 近隣の高校や科学館と連携した大学生向けの天体観測授業

中野 多恵（九州工業大学）、井上 哲秀（福岡県立小倉高等学校）

九州工業大学は、平成 17 年度に文部科学省の現代的ニーズ取組支援プログラム「学生と地域から展開する体験型理数学習開発」GP に採択され、その取り組みをはじめた。主な取組は、「教育体験型学習」「ジュニア・サイエンス・スクール」「地域・学校との連携」の 3 本柱である。事業に取り組み始めた早い時期に、近隣在住の新星を発見した高尾明さんとの出会いもあり、学生が天体観測できる設備を屋上に整備した。現代 GP が終了した平成 22 年度以降も、地域の学校や科学館等の公共施設と連携して事業を継続している。平成 23 年度には、「サイエンス工房」の授業で、『天体観測』を SSH の高校生と共に合同で実施した。本学は、工学部だけの単科大学であるため、学生の専門分野は天文学とは異なり、受講学生の知識は義務教育で学んだ天文学程度であった。そのため、近隣の科学館のプラネタリウムを授業専用で使用させてもらい、小学校で学ぶ天文学から授業を実施した。最終的には、8 月に市民を対象とした天体観測を開催し 15 回の授業は終了した。工業大学での天体観測の授業は、予想以上に難しかったが地域と協力して今後も展開していきたい。今回は授業の活動内容及び成果を発表するとともに、残された検討課題を踏まえた来年度以降の準備について報告する。